



松江城下町遺跡 (南田町 134-1) 現地説明会資料

平成25年12月14日(土)
松江市教育委員会
公益財団法人松江市スポーツ振興財団

1. はじめに

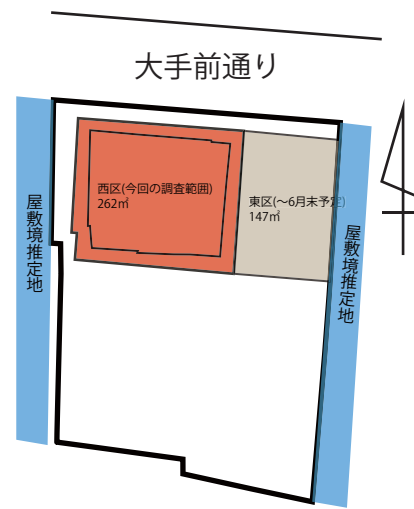
本調査地は、松江市南田町134-1番地に所在し、城山北公園線(通称大手前通り)の道路拡幅工事に伴う松江城下町遺跡の発掘調査です。

2. 松江城下町絵図から見る調査地



延享年間絵図(1745(延享2)年~1747(延享4)年頃) 島根県立図書館蔵

…今回の調査範囲



現況でみる「大橋伊左衛門」屋敷地の範囲と調査地の位置関係

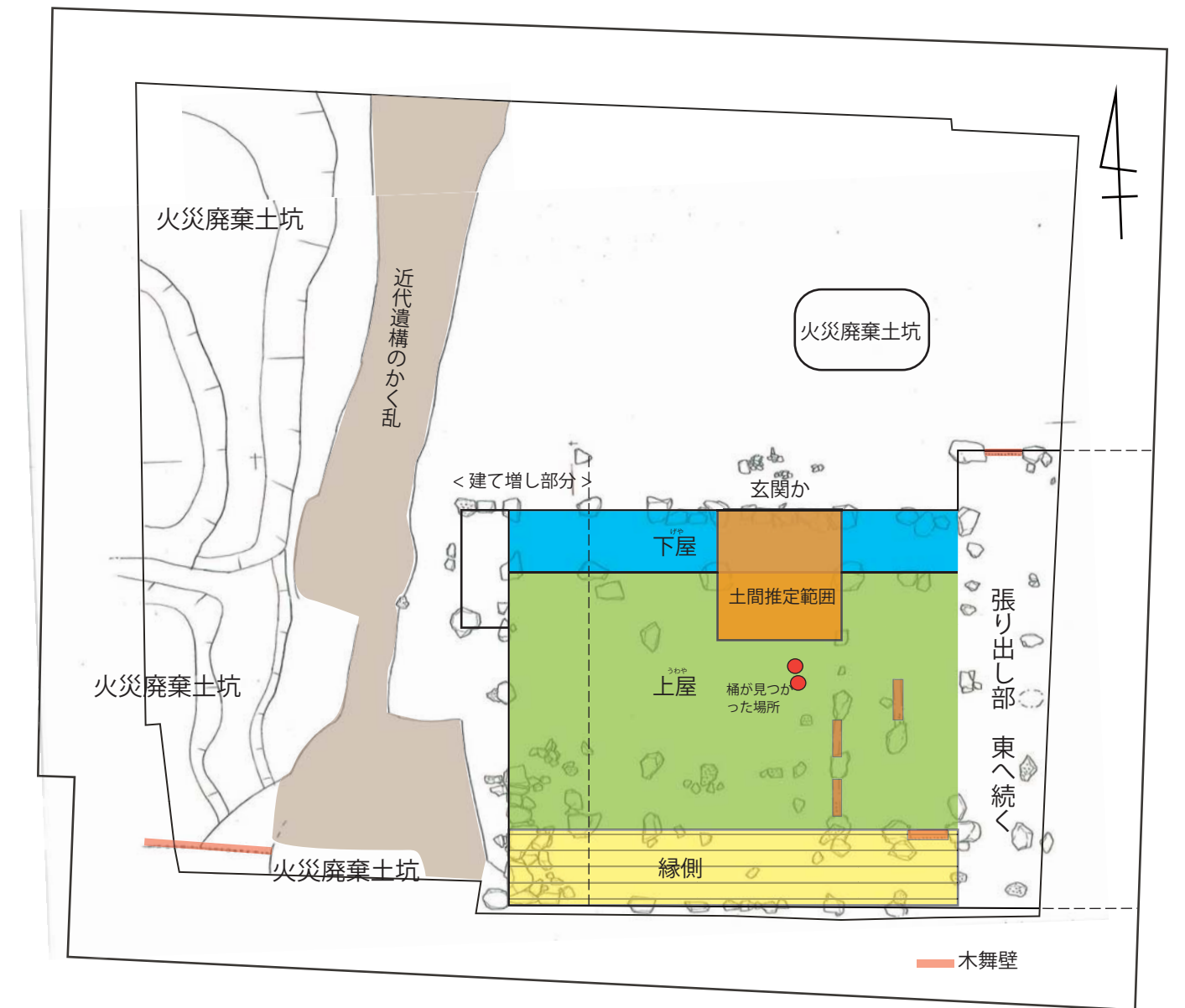
今回見つかった屋敷跡は、17世紀後葉~18世紀前半代のものと考えられ、松平氏2代藩主綱隆から6代藩主宗徳の治世の頃にあたります。

この時期に該当する絵図では、松平期に筆頭家老であった大橋茂右衛門の与力(家臣)とされる「大橋伊左衛門」の屋敷地にあたるのがわかっています。

今回の発掘調査では、この屋敷地の北半分の調査を行うことになっています。

3. 発掘調査の成果

- 17世紀後葉~18世紀前半代の礎石建物跡を良好な状態で検出することができました。
- 上屋、下屋、縁側のほか、玄関や土間、木舞壁で仕切られた空間等があることがわかり、礎石の配列や三和土の広がりから、建物の利用状況が明らかになる例は非常にまれです。
- 検出された礎石建物跡は、少なくとも2度の火災にあっていることが、土層の堆積状況からわかりました。
- 火災ででた廃材などが捨てられたゴミ穴や、火災後の建て替えて、西側に建て増しを行っている場所も確認できました。
- 屋敷の床下から桶が2つ並べて納められているのが発見されました。これらは地鎮具である可能性があり、当時の習俗を知る手がかりとなります。



礎石建物跡と火災廃棄土坑の平面図 S=1/100



火災にあった礎石建物跡 *黒くなっている所が火災跡



火災後、放置された木製品 *下駄や屋根に葺かれた板材



三和土検出状況

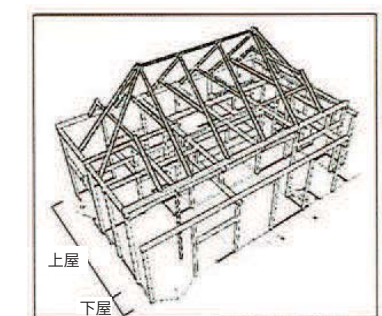


木舞壁の竹が残っている

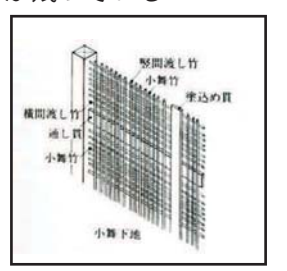


二つ並べて納められた桶

<参考資料>



<上屋と下屋の構造> 『民家の変容と多様性』2010年中村翔悟から引用



<木舞壁の構造> 理工学社『建築用語辞典』から引用